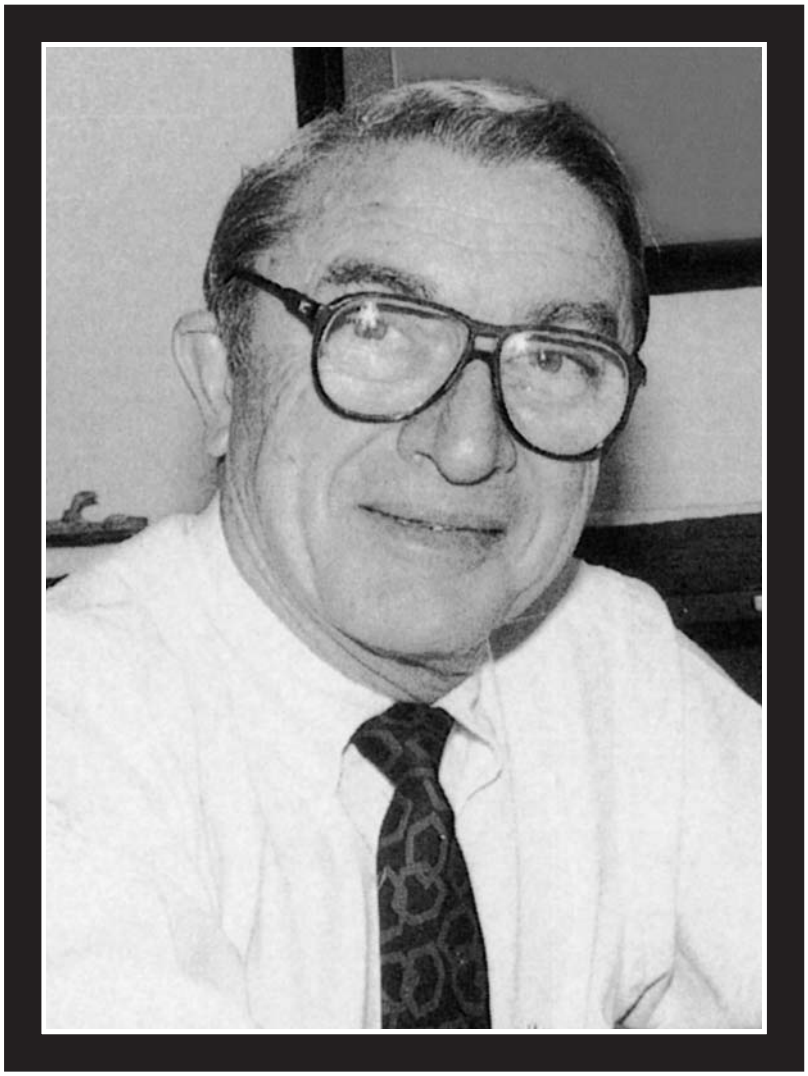
The Japanese Society for Medical Mycology,
Honorary Member

Dr. Libero Ajello

(Former Director of the Divsion of Mycotic Diseases, Centers for Disease Control and Prevention, Atlanta, Georgia, U.S.A.)
(1916－2004)



訃　報

本学会名誉会員 **Dr. Libero Ajello** は，
2004 年 **2** 月**24**日逝去されました．
謹んで弔意を表します．

日本医真菌学会
理事長　小　川　秀　興

日本医真菌学会名誉会員
DR. LIBERO AJELLO（1916-2004）
を偲んで

日本医真菌学会名誉会員のDr. Libero Ajello（愛称 *Li*）（Former Director of the Division of Mycotic Diseases, Centers for Disease Control and Prevention, Atlanta, Georgia, U.S.A.）は長い闘病生活の末2004年2月24日に逝去された．彼は1916年1月16日City of New Yorkに生まれColumbia UniversityでA.B.（1939），M.A.（1942），ついでPh.D.（general mycology）を1947年に取得された．その間1942年には細菌学者でもある愛妻Gloria（Wolff）夫人と結婚された．当時創設されたCommunicable Disease Center（CDC）のmedical mycologistとして採用され，当初Duke University Medical Schoolに派遣されたが直ぐにAtlantaに移り急造の医真菌学部門を稼働可能とした．

その後43年以上に亘りDr. Ajelloと彼のスタッフは医真菌学の数多くの分野に多大な功績を挙げた．彼らの表在性及び深在性真菌症についてのいろいろな研究はまとめられて数多くの分類学的，生態学的，疫学的研究へと発展し多くの深在性真菌症の血清学検査と試薬が開発された．最近は分類学に分子生物学的研究成果を加える理論を構築中であった．彼は350篇を超える論文を執筆，12冊の学術書を編集，3冊を共同編集した．Dr. Ajelloと彼のスタッフは世界各国から来た医真菌学者の教育と共同研究に長年に亘って貢献した．CDCで彼は真菌の同定と真菌症の診断を教育する2ないし4週間の講習会を定期的に開催した．またラテンアメリカ，ヨーロッパはじめ世界各地を自ら駆け巡って講義し講習会を開催した．第二次世界大戦前後から世界の医真菌学を牽引したDr. Chester W. Emmons（1900-1985, NIH），Dr. Norman F. Conant（1908-1984, Duke University）と共にアメリカの3巨人（ACE）と言われる．

Dr. Ajelloの医真菌学における貢献はいろいろな形で遺されている．真菌名“*Trichophyton ajelloi*”と“*Ajellomyces*属”は病原性真菌の命名学に彼が与えた決定的な影響を示す記念碑である．Dr. Ajelloは米国外の日本を含む8つの学会の名誉会員に選ばれ，国際医真菌学会（ISHAM）からのLucille K. Georg Medalを含む数々の賞を受けた．1990年CDC引退時には医真菌学における卓越した科学の進歩と秀でた指導力の功績を評価されWilliam C. Watson Jr. - Medal of Excellenceを受章した．CDC引退後直ちにEmory UniversityのAdjunct Professorに就任し彼の真菌学的研究を継続する拠点とした．European Journal of Epidemiology（Volume 8, No. 3, 1992）は彼にゆかりのある世界各国の著名な学者から24の優れた論文を集めCDC引退記念号（Festschrift）を刊行した．

2004年5月New OrleansにおけるAmerican Society for Microbiology（ASM）meetingではGloria夫人も列席する中Dr. David W. Warnock, Dr. Michael R. McGinnis, Dr. Leonel Mendozaを含む多くの科学者からDr. Ajelloに対する賛辞や思い出が追悼の言葉として述べられ最後に“A Book of Remembrance”がGloria夫人に贈られた．ASMは彼（及びDr. Lorraine Friedman）の名誉を称えて著名な医真菌学者の生涯を通した貢献を賞する“Ajello-Friedman Award”を創設した．

Dr. Ajelloは真の国際人で日本にも親愛感を持っていた．岩田和夫博士とは古い友人であった．1975年第6回国際医真菌学会（ISHAM/東京）ではPresidentとして来日し1979年に本学会の名誉会員に推戴された．本学会の特別講演を1980年（福岡）と1989年（那覇/Dr. Ajelloの急病により小生が代演）を担当された．その他に1990年にはIUMS Congress: Bacteriology & Mycology（大阪）で小生とISHAM symposiumを企画開催するなど何度も来日された．占部治邦博士をISHAM Presidentに選任する際には大変な御助力を戴いた．また，楠　俊雄，篠田孝子，庄司昭伸，杉浦義紹，藤田信一，本房昭三，松本忠彦，宮治　誠（50音順）等の諸氏がCDCで研鑽を積み，直接，間接に御指導を受けた．この同窓会をCDCが面するClifton Roadに因み“Clifton Club”と呼んでいる．

2003年12月，1977年以来途切れずに届いていたChristmas-New Year Cardが来なかった時不吉な予感がし病状の悪化を心配した．しかし頭の中では彼の強靭な心身が危機を再び乗り越えると信じ切っていた．Dr. Ajelloは自分自身が深刻な疾患を持ちながら私の家族の健康と私の2人の息子の成長を彼の孫（Marcの1男1女）の成長と同様に見守り喜んで下さった．Mystery novelの好きな小生に彼は毎年“summer reading”と称してTony Hillermanの新刊を贈って下さった．目の前には昨年の“To Tad, for your enjoyment. *Li*, 6-23-03”と記されたHillermanの最新刊“The Sinister Pig”（HarperCollins Publishers, 2003）がある．Hillermanの次の新作品を買う覚悟はまだない．

最後に17年前に小生が書いた拙い文章の最後の段落を再掲する．恩師Dr. Libero Ajelloに対する尊敬の念は

昔も今も全く変わらない.

「著名な研究者をその業績を連ねて称賛することは容易であるが, そのひととなりを紹介することは困難である. 10年（当時）も懇意にしていただきながらDr. Ajelloを文章で表現しようとすると表面的で散漫な記述に終ってしまうのは残念である. けれども, Dr. Ajelloを知る多くの人の意見は彼の業績とともに人格の偉大さを認める点で一致している.」（科学者の映像-Dr. Libero Ajello. Medizin von Heute, No. 69, 1987, pp. 65-66）

日本医真菌学会は茲にDr. Libero Ajelloの遺された御家族（Gloria夫人, 御子息Marc御一家）に心からなる弔意を表する.

松　本　忠　彦
（東芝病院 皮膚科部長）